



河村 善一 議員

障がい児福祉の対応

問 ①「最初に相談に行った時、尋問のようので、ショックを受けた」とのこと聞いています。

障がい児及び保護者の立場にたって、親切丁寧に対応すべきと考えるが、今までの対応と今後の対応は。

②計画相談・地域相談、地域生活支援の相談員の各家庭への告知の徹底はできないのか。

③特別児童手当等を申請し受給を受けるまでに数カ月もかかる場合がある。根気がないといけないし、途中でやめてしまわれる方もおられる。保護者などに如何に周知徹底するか。

④現在、日中一時支援サービスと児童デイサービスを利用されている方は、町外の施設を利用されている。愛荘町に

日中一時支援サービス・デイサービス事業

Q 町内の施設について

今後の予定はあるのか

A 来年度、事業が実施できるよう調整を進めている

近くで、一番利用されている施設には移動支援がなく大変困っております。

今後、町内の施設整備計画について尋ねる。

答

(住民福祉部長)

①住民福祉部では、子育て家庭や高齢者・障がいのある方などさまざまな相談に対応しており、相談者の立場に立って、親切丁寧に対応するよう努めているが、指摘のあった事案はあってはならないことであり、深く反省し、今一度相談対応のあり方について、部内で研鑽を深めていきたい。

②平成24年4月の改正障害者自立支援法の施行により、



地域福祉課の案内板

調整を進めている

サービス等の支給決定前に必ずサービス利用計画案を作成することになった。

平成24年度、25年度においては事業所数が限られており、相談員も非常に少ない現状であったが、今年度全対象児に計画相談支援を入れることができた。

③特別児童扶養手当については、国において申請書類が決まっており、その中に診断書の添付が義務付けられている。

④現在、相談に来た保護者に対してスムーズに計画相談支援が受けられるよう、丁寧な制度説明や相談支援事業所との調整を図っていきたい。

⑤特別児童扶養手当については、国において申請書類が決まっており、その中に診断書の添付が義務付けられている。

特に発達障害児にかかる診断書の作成はごく限られた病院でしか対応できなかったため、数カ月待ちと聞いているが、今年度から愛知・犬上管内で発達外来が確保されたことから、少しは解消されるのでは

ないかと考えている。

平成25年度に作成した「愛荘町障がい福祉の手引き」の内容を更に充実させるとともに、皆さんに周知したい。

④現在、町内には日中一時支援事業等を実施している事業所がなく、保護者の方々から強い要望があることは承知している。

来年度、一事業所から町内での事業を展開してもよいとの回答を得ているので、事業が実施できるよう調整を進めている。

情報処理の

インフラ整備

問

①両庁舎および公共施設にワイファイの設置はできないか。

②タブレット・デジタル教育の今後について尋ねる。

③フェイスブックの設定を教えてください場所はないか。

答

(総務部長)

①平成27年7月に「滋賀県無料ワイファイ整備促進協議会」が設置され、愛荘町もそれに参画している。

今後、当協議会と連携を図

りながら、無料ワイファイの整備を研究・検討していきたい。

答

(教育主監)

②国の「教育のICT化に向けた環境整備4カ年計画」財政措置がある平成29年度の本格導入に向けて現在準備を進めている。

タブレットや電子黒板を使ってどんな授業を作るのか子どもたちにどんな力を育てるのかといった見通しを学校と話し合いながらすすめていきたい。

答

(総合政策課長)

③愛荘町公式フェイスブック「あしよさん紀行」は、平成26年8月から配信され、現在330名の方に「いいね」をいただいている。今までの広報紙やホームページとは異なり、情報の即時性にメリットがあり、住民との新たな情報伝達の方法として利用促進されている。

新しい時代に対応した司書の養成も行っているが、現時点では図書館にフェイスブック等のサポート体制を整備することは考えていない。

町議会視察研修

キーワードは、「地域力で地域おこしを」

副議長 辰己 保

町議会は、11月16・17日に和歌山県の「和歌山電鉄貴志川線」および「農業法人株式会社 秋津野」へ視察研修をおこなった。

視察研修は、まず「猫ちゃん駅長」で全国的にも知られている「和歌山電鉄貴志川線」の「伊太祈曽駅」を訪問し、社員さんからの「貴志川線の存続」の経緯と「未来につなぐ」取り組みについて説明をいただいた。

そもそも貴志川線は、2004年、南海鉄道が突然この路線から撤退すると表明されたが、「なんとして、この路線を残したい」との強い思いをもって、市民団体が立ち上げた。

「この思い・熱意」は、行政を動かし、岡山電気軌道の運営参加へとつながり、2006年「和歌山鉄道」へ移管により、貴志川線が存続させたそうである。



タマ駅長の姿をした「タマ電車」

市民は「貴志川の未来をつくる会」を結成して10年。少子高齢化社会や道路整備の進展そして行政支援がなくなるといふ様々な環境変化のもと、電車の裝飾の工夫などをおこない貴志川線の永続のために「あと4回(2往復)きつぷ」販売や地域活性化のための「祭り」など多くの取り組みをおこない、鉄道会社と一緒に知恵を絞っていることも紹介された。

貴志川線の説明後、伊太祈曽駅からタマちゃん駅長の居る貴志駅まで乗車し、地域力で「鉄道の存続」を祈念して次の視察へとすすめた。

もう一つの視察先、農業法人「秋津野」は、旧上秋津野小学校を再利用して



秋津野ガルデンの昔そのままの教室で研修

据え、事業展開を進めてきたことが報告された。

玉井社長の聴講後、一行は「みかんジュース」工場を見学し、視察研修を終えた。

最後になりましたが、愛荘町で尽力いただき、現在、和歌山大学で「図書館の意義と価値」で教鞭をとっておられる渡部元愛荘町教育長とお会いして、議員一同親しく交流したことを申し添え、報告とします。